Ⅲ．人間科学科目（留学生）

人間科学科目（留学生）

1．目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

1）日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。

2）大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。

3）日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。

4）自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2．日本語と日本事情の科目の履修について

日本語ＡⅠ、ＡⅡ、ＢⅠ、ＢⅡは１年次に、日本語ＣⅠ、ＣⅡは１年次または２年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情Ａ、日本事情Ｂは１年次または２年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。日本事情Ｃ、日本事情Ｄは１年次から３年次の学生を対象に金曜日に開講され、人文社会系科目に振り替えることができる。留学生はその他、人文社会系科目として１科目２単位（合計10単位）が必修である。履修案内や時間割を参照して、履修を希望する科目を選び、最初の講義に必ず出席すること。

日本語ＡⅠ　Japanese Ⅰ

全学科　第１年次　前期　選択　１単位

担当教員　　石束　万里子

1．概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力をきちんと定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2．キーワード

「日本の社会･文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3．到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4．授業計画

第１回～第２回　第１課　いちろく銀行

第３回～第４回　第２課　動物園

第５回～第６回　第３課　仮想現実

第７回～第８回　第４課　体の時間

第９回～第10回　第５課　自然

第11回～第12回　第６課　左利き

第13回～第14回　第７課　共生住宅

第15回　試験

5．評価方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7．教科書・参考書

1）水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

8．オフィスアワー等

日本語ＡⅠ　Japanese Ⅰ

全学科　第１年次　前期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的
日本の現代社会に関して必要な情報を整理し、そこから日本で自ら発信する技術を養成することを狙いとする。

●授業の位置付け
中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

２．キーワード

「日本の現代社会」「読解」「文法表現」「討論」

３．到達目標

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
●読解力をつける
●考えたこと、感じたことを日本語で的確に表現する力をつける。
●積極的に他人の意見を聴き、自分の考えを組み立てて議論を進める力をつける。

４．授業計画

第１回～第２回　余暇
第３回～第４回　健康産業
第５回～第６回　見合いは親同士で
第７回～第８回　性別役割分担
第９回～第10回　孫離れできぬ祖父母
第11回～第12回　ホテル化した家庭
第13回～第14回　義理を欠くことの大切さ
第15回　期末試験

５．評価方法・基準

授業への参加度（20%）、小テスト・宿題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

中上級レベルの学習者を対象とする。
課題を必ず提出し、復習を主に心がけること。

７．教科書・参考書

留学生のための時代を読み解く上級日本語（スリーエーネットワーク）810.7/M-41

８．オフィスアワー等

木曜日４限

日本語ＡⅡ　Japanese Ⅱ

全学科　第１年次　後期　選択　１単位
担当教員　　石束　万里子

１．概要

●授業の目的
日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け
中級レベルの日本語能力をきちんと定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

２．キーワード

「日本の社会•文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

３．到達目標

①読む力、聞く力を向上させる。
②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

４．授業計画

第１回～第２回　第８課　カラー柔道着
第３回～第４回　第９課　料理技能の検定
第５回～第６回　第10課　発明王
第７回～第８回　第11課　花の洋風化
第９回～第10回　第12課　さいせん回数券
第11回～第13回　KIT版科学読み物
第14回　研究室見学
第15回　試験

５．評価方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。
毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

７．教科書・参考書

１）水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
２）アプドゥハン恭子・石束万里子：KIT 版科学読み物 2002（九州工業大学）

８．オフィスアワー等

日本語ＡⅡ　Japanese Ⅱ

全学科　第１年次　後期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

２．キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

３．到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できるようになる。

②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができるようになる。

４．授業内容

毎回の授業は、その時々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。

適宜、語彙の復習テストを行う。

５．評価方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

特になし

７．教科書・参考書

なし

８．オフィスアワー等

木曜日４限

日本語ＢⅠ　Japanese ＢⅠ

全学科　第１年次　前期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部１年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

２．キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

３．到達目標

●科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

●聞き取った内容を的確に把握する。

●科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

４．授業計画

第１回　説明文の表現練習
第２回　テーマ：メディア革命
第３回　テーマ：新エネルギー開発
第４回　テーマ：再生木材
第５回　テーマ：最先端ロボット
第６回　テーマ：エコタウン
第７回　テーマ：有毒アオコ
第８回　テーマ：脳科学と教育
第９回　テーマ：メタンハイドレート
第10回　テーマ：地球温暖化　島が沈む
第11回　テーマ：小水力発電
第12回　研究室見学
第13回　地球温暖化についてまとめ
第14回　テーマ：バイオメトリクス認証
第15回　試験

５．評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

７．教科書・参考書

アプドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

８．オフィスアワー等

木曜日４限

日本語ＢⅡ　Japanese　ＢⅡ

全学科　第１年次　後期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部１年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

２．キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

３．到達目標

●科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
●聞き取った内容を的確に把握する。
●科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

４．授業計画

第１回　テーマ：折り紙工学
第２回　テーマ：空飛ぶ無人IT基地
第３回　テーマ：光化学スモッグの再発
第４回　テーマ：ICタグで暮らしが変わる
第５回　テーマ：磁石研究とエコカー
第６回　テーマ：東京大地震
第７回　テーマ：ペットボトルリサイクル
第８回　テーマ：脳の疲れを癒せ
第９回　テーマ：超薄型テレビ開発
第10回　テーマ：生物をまねる
第11回　テーマ：生ごみを生かせるか
第12回　研究室見学
第13回　テーマ：スペースデブリ
第14回　研究室見学
第15回　試験

５．評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（30%）、試験（50%）

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

７．教科書・参考書

アプドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

８．オフィスアワー等

木曜日４限

日本語ＣⅠ　Japanese　ＣⅠ

全学科　第２年次　前期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

２．キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

３．到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できるようになる。
②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができるようになる。

４．授業内容

毎回の授業は、その時々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。

適宜、語彙の復習テストを行う。

５．評価方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

７．教科書・参考書

なし

８．オフィスアワー等

木曜日４限

日本語ＣⅡ　Japanese ＣⅡ

全学科　第２年次　後期　選択　１単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか，自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。

２．キーワード

「自己評価」「自律的学習」

３．到達目標

●自分の日本語能力を客観的に評価する
●不十分な技能を磨くための学習方法を身につける
●自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける
●まとめとして説得力のあるプレゼンテーションを行う

４．授業内容

第１回　イントロダクション：自己評価とは
第２回　自分の力を知る：語彙の広さ、量
第３回　前回のフィードバック、練習
第４回　自分の力を知る：文法的な正確さ
第５回　前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
第６回　自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
第７回　前回のフィードバック、練習
第８回　自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
第９回　前回のフィードバック、練習
第10回　自分の力を知る：表現力・説得力
第11回　前回のフィードバック、練習
第12回　プレゼンテーションに向けて（１）構成
第13回　プレゼンテーションに向けて（２）説得力
第14回　プレゼンテーションに向けて（３）練習
第15回　プレゼンテーション

５．評価方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

７．教科書・参考書

特になし

日本事情Ａ　Japanese Culture and Society A

全学科　第１年次　前期　選択　２単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

２．キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

３．到達目標

①大学生にとって知っていることが望ましいと思われる日本社会に関する基本的な知識を獲得する
②討議に積極的に参加して考えを深める
③日本の社会、文化についてまとまりのある文章を書く

４．授業計画

第１回　アイスブレーキング：国のイメージ
第２回　学校生活
第３回　英語教育
第４回　教育問題：いじめ
第５回　しつけと人間関係
第６回　年中行事
第７回　若者文化
第８回　日本の物価
第９回　結婚と女性
第10回　宗教
第11回　日本人はなぜよく働くか
第12回　社会保障制度
第13回　自殺
第14回　日本の未来

５．評価方法・基準

レポート（60%）及び　毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

下の参考書等を参照して理解を深めること。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

●参考書

１）日鉄ヒューマンデベロプメント・日本外国語専門学校：日本を話そう　15のテーマで学ぶ日本事情（The Japan Times）302.1/N-16
２）日鉄ヒューマンデベロプメント：日本 - その姿と心 -（学生社）302.1/S-10
３）山本茂：留学生のための日本事情（大学教育出版）302.1/Y-5
４）長谷川勝行：日本人の秘密（ヤック企画）817.7/H-3

８．オフィスアワー等

月曜日３限

日本事情Ｂ　Japanese Culture and Society B

全学科　第１年次　後期　選択　２単位
担当教員　　アプドゥハン恭子

１．概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

その時々の新聞から興味のある記事を自ら選んで紹介し、意見を交換する。現代の日本社会に対する関心と理解を深める。

２．キーワード

「新聞記事」「日本社会」

３．到達目標

・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う
・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

４．授業計画

学生自身がその時々の新聞から興味のある記事を取り上げて、要旨をまとめ、意見を書いて紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。提起された問題について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

５．評価方法・基準

発表（50%）及び毎回のノート（30%）授業への参加度（20%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で日本の新聞記事も読んでみる習慣をつけよう。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

８．オフィスアワー等

月曜日３限

日本事情Ｃ　Japanese Culture and Society C

全学科　第２年次　前学期　選択　２単位
担当教員　　山路　奈保子

１．概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。

また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

２．キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

３．到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける

４．授業計画

第１回　データでみる日本
第２回　日本の地理・気候
第３回　憲法
第４回　政治制度
第５回　選挙と世論
第６回　戦後経済史
第７回　消費者をめぐる問題
第８回　労働問題と社会保障
第９回　宗教
第10回　日本の歴史（１）
第11回　日本の歴史（２）
第12回　現代日本社会の諸問題
第13回　北九州の地理と歴史
第14回　まとめ

５．評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50%）、発表（20%）、授業への参加度（30%）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

７．教科書・参考書

特に指定しない

日本事情D　Japanese Culture and Society D

全学科　第２年次　後期　選択　２単位
担当教員　　山路　奈保子

１．概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

２．キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

３．到達目標

・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

４．授業計画

第１回　　人間関係を調節する表現についての概論
第２－４回　さまざまな表現と使い方
第５－７回　頼むとき・頼まれたとき
第８－10回　苦情を言うとき・言われたとき
第11回　　意見を述べる
第12回　　感謝・謝罪
第13回　　ほめる・ほめられる
第14回　　まとめと討論

５．評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70％）と授業への参加度（30％）で評価する。

６．履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館３階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

７．教科書・参考書

●教科書

特に指定しない